

### 1. 評価結果概要表

**【評価実施概要】**

事業所番号	0470900242		
法人名	株式会社 アルテディア		
事業所名	グループホーム ゆうゆう・多賀城		
所在地 (電話番号)	宮城県多賀城市高崎3-29-1 (電話) 022-389-2406		
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 30・31 日		

**【情報提供票より】** 20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23人	常勤	21人, 非常勤 2人, 常勤換算 21, 2

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有( ) 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	360 円	昼食	360 円
	夕食	360 円	おやつ	120 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用の概要(10月1日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	6名	要介護2	8名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82,9 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まひと内科クリニック・石巻港湾病院・杉山歯科
---------	------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

入居者に寄り添い、入居前、入居後も傾聴を大切にホームでの生活を支えていこうとしている。常に本人本位のケアができていのかを振り返り、介護計画作成のカンファレンスには家族も出席し、意見や要望を聴いて介護計画に反映させている。遠方の家族にはカンファレンス計画シートを送付している。しかし、必ずしも呼びかけに応じてもらえず、今後の課題としている。運営推進会議のメンバーに市から2名参加し連携もとれており、今年度から始めた防災プランにおいては、ホームの援護を必要とする高齢者の拠点としていく考えである。看取り・重度化経験は4例ほどあり、ホームで最期を看取った初めての経験もしている。今まで病院にて死亡確認など直前まで向き合った経験を有し、思いを抱えながらケアにあたり職員の成長につながっている。職員一人ひとりの年間目標を定め、その達成に向けて職員同士が助け合い、努力している。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題として、地域密着型サービスとしての理念の作成であったが、職員で話し合いを行い作りあげた。それから、個人情報の開示に関する規定の記載も改善され、改めて個人情報に関する勉強会も行った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット担当者1名を決め、職員で振り分けて行ったものを話し合いによりまとめた。日々当たり前としていたことも、原点に戻ってみる振り返りの大切さを感じた。職員一人ひとりの年間目標の目安も見えてきたという。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームでの取り組み状況や問題点について報告・相談をし、メンバーそれぞれの立場から助言やアドバイスを出し合っている。とりわけ町内会長、民生委員のホームに対する理解が深まり、職員が日頃気づかないことや、ホームの防災訓練に対するアドバイスを受けるなど、会議を通じた成果もでてきている。更に発展したものにするために、基準省令にあるように2ヶ月に一度開催することが望ましい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時にも日頃の様子や報告されるが、健康状態・様子など、職員の手紙を添えてお便りでも報告がされている。家族会・運営推進会議などで意見や要望を出してもらいが、言葉に表せない思いも汲み取り、疑問は不満と捉え対処している。面会時やカンファレンスのときにも要望を聴いている。アンケートによる満足度調査を行い、改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域と共存していくために、ホームからの積極的な働きかけが必要という意識を持っている。地域の防災訓練に参加し、子供みこしの休憩所、近所の美容室、婦人ボランティアの協力も得られている。中・高生の体験学習も受け入れている。散歩コースにある保育所との交流を図ってみるのもよいのではないかと。地域への還元として毎週水曜日にホーム独自で行っているエコ活動(地域のごみ拾い)を入居者と一緒に行うことにより顔見知りも増え、挨拶を交わすなどホームの理解に繋がっていくことを期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前年度、職員の話し合いで地域密着型としてのグループホーム独自の理念を作成した。今年度はホームの目標としての理念の意味を深めるべく勉強会を行い、活発な意見交換を行った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し実践に活かしてゆくために、職員一人ひとりが理念に沿った年間目標を設定している。ユニット会議の時に唱和し、また、目標を書いたカードを携帯するなど、目標達成に向け様々な努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域と共存していくためにホームから積極的に働きかけていかなければという意識を持っている。地域の防災訓練に参加し、子供みこしの休憩所、美容室や婦人ボランティアの協力も得られ、中・高校生の体験学習も受け入れている。毎週水曜日入居者と共にエコ活動を行い、地域の方たちと顔馴染みになってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に話し合いが行われ、それぞれにまとめた自己評価表である。様々な意見をまとめる難しさはあったが、日々当たり前としていた事も、原点に戻ってみる振り返りの大切さを感じたという。前年度の課題については話し合い、改善されているが、新たに見えてきた事もあるので、努力をしていきたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市から2名の参加があり、ホームの現状は理解されている。区長・民生委員のホームに対する理解が深まり、地域の防災訓練、職員が日頃気づかない事などアドバイスを受けている。しかし、会議は4ヶ月に一度の開催となっており、サービスの向上のためにもおおむね2ヶ月に一度の開催が望まれる。	○	ホームとして、地域との日常的な繋がりをもう少し広げていかなければとの思いもある。メンバーの力を借りることができる機会でもあるので、基準省令にもあるように最低2ヶ月に一度の開催とし、会議を通して協力関係が更に発展していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保険者として市は、地域密着型となったメリットは大きいという。管理者は「多賀城市介護保険運営協議会」の委員になっており、認知症について商店や銀行にアドバイスを貰うこともある。これから本格化する市の防災プランにおいても、ホームが援護の必要な高齢者の拠点となるべく考えをもっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時にも報告がなされるが、毎月お便りで生活の様子、健康状態、担当職員の手紙も添えて報告がなされている。金銭管理は返信用の封筒と共に金銭出納帳を送付し、確認もらう。遠方の家族には電話による報告もなされているが、関係が希薄になっていることが課題という。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議などで意見や要望を出してもらいが、言葉に表せない思いも汲み取り、疑問は不満と捉え対処している。家族に対する満足度のアンケートを実施し、改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	短期間での異動が多い棟に対して他棟からのヘルプや、異動した職員の棟へ入居者が遊びに行くなど、馴染みの関係が続くように配慮している。しかし、退職による質の低下を招かないためにも、法人として何らかの対策が必要かと思われる。入居者・家族が不安を持たぬよう、短期間での退職の報告もしていただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回管理者を中心に、時に職員が講師となり、認知症や脳神経機能について様々なテーマで勉強会を行っている。法人として管理者研修、リーダー研修なども行っている。外部研修は他のホームの職員と悩みを共有する機会とも捉え、積極的に参加することを進めている。受講後はミーティングで報告し、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、交換研修、事例報告会での発表も行った。毎月のブロック会議にも参加し、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前ホームの見学や体験をしてもらうなどの工夫もなされるが、入居前・入居後も、入居者の話や思いを傾聴することを大切にしている。併設のデイサービスから入居された方に対しては、入居後もデイサービスに行きながらホームでの生活に馴染んでいけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のなかで人生経験の豊かな入居者から学ぶことは多い。おやつ作りや食後の後片付けなど一緒に行った時の笑顔、「疲れていない？」とか「張りつめないように」など心配してかけてくれる言葉に癒されるといふ。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京研修センター方式を活用、本人の思いを汲み取る努力をしている。しかし、本人の現状に目が行きがちであることを反省し、振り返りの視点も大切であり、職員の視点は本人本位になっているかを検討するために、シートの見直しを図っている。	○	できないと思い込んでいたことが何かのきっかけでできるようになったとき、本人本位になっているか、見落としていたことがあったのではないかなということから、更に検討していきたいとする職員の思いに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成のカンファレンスは、家族の都合のよい日にあわせ、家族参加のもとで行う。その他に医師や訪問看護師の意見も反映させている。遠方の方にはカンファレンス計画シートを郵送し、意見をもらう。参加できない家族もあることが課題としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングチェックシートにより評価を行い、昼休みに行うミニカンファレンスでも話し合いを持ち、3ヶ月に一度の見直しを行っている。家族への説明もなされているが、プラン作成が追いつかないこともあり、確実に計画を作成できるようにしたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や併設のデイサービスのプログラムに参加の支援をしている。スペシャルデーとして職員と1対1で外出し、買い物や食事を楽しんで来る。車椅子の方の墓参りには職員が2名付き添い、入居者の要望に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診する方もおり、家族が付き添い受診するときには現在の状態、医師に確認して欲しいことを伝え、受診後家族から報告を受ける。協力医である内科医の往診の際は、訪問看護師も同席する。歯科医の定期的な往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期の看取りの事前確認書」「看取り介護についての同意書」を作成し、家族と話し合いを行っている。以前看取りを行った時、職員のメンタル面などの講習を行って臨んだが、経験をして初めて分かるという思いであった。それは職員の成長も見え、グループホーム協議会の実践報告会での事例発表も行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・入浴・更衣などの対応は、自尊心を傷つけない言葉かけを心がけており、自分がされていやなことはしないという基本的な対応の仕方を振り返る。職員の守るべき法令遵守を作成中であり、プライバシーに関する勉強をデイサービスと合同で行った。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分のペースで暮らしているかを話し合い、その人が主役になれるよう見守る。同好会への参加や、園芸、あまり意思表示がない方も、好きな歌を聴いたりして過ごす。その日の体調をみながら食事の時間など、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は入居者と共に出かけ、食材を選んでもらったり、調理の下ごしらえや配膳、後片付けもそれぞれの力を活かしながら行っている。食前嚙下体操をし、和やかな雰囲気ですべてをこなしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴となっているが、本人の意思を尊重した柔軟な対応がなされている。希望すれば夜間の入浴も可能であり、相性のよい職員でも拒否する場合もあるが、「入浴ケア記録」に入居者の話した事など記録し、個別ケアを考えた時の重要な時間としている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの趣味や持てる力を活かして、プランターでの野菜作り、雑巾縫い、包丁砥ぎ、調理など行っている。同好会(調理・手芸・レクリエーション・カラオケ)活動や、ホーム独自で行うエコ活動としての地域のごみ拾いにも参加する。他棟の入居者や職員との交流にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩やドライブに出かけたりする。近所の美容室は、馴染みの関係になっている。食材の買出しに行くスーパーも協力的であり、3日に一度入居者と共に出かけている。今後、個別の外出支援・全体での外出も増やしていきたいとしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りに対応するための話し合いを行い、日中は基本的に玄関・リビングの鍵はかけていない。離棟する方には家族の了解を得て、窓にストッパーを取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会が中心となり年2回の避難訓練を行い、1回は夜間を想定したものである。訓練を町内会長と民生委員に見てもらい、助言を頂いた。近日中に夜勤の一人勤務を想定した訓練を行う予定であり、入居者の状態の変化に伴う誘導の仕方も見直していく等、災害に対する意識は高い。災害備蓄も準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はチェック表で把握しており、献立は法人の栄養士のチェックを受けている。毎月1回体重測定を行い、コントロールの必要な方は毎週行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度による健康障害について考え、1年間空調をチェック、それをデータ化し管理をしている。季節が感じられる装飾をほどこし、リビングは、台所の音や匂いが生活感を感じることができ、明るく居心地のよさを感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれているが、入居者にとって必ずしも使い慣れた物が精神的な安定に繋がらないこともあるという考えも持っている。今後、入居者の状態の変化に対する配慮も必要と考えている。		